



わくわくする期待感を
美しい貼箱に詰め込んで



河田優さん(左)と弟の直樹さん

創業以来の技術を熟成し 小ロット多品種のものづくり

箱の表面に紙や布を貼り付け、美しく装飾加工された「貼箱^{はりばこ}」。最近では、贈答品需要が減少し、簡易包装化の流れも進んでいるが、一方で入れ物に高級感や華やかさなどの価値をプラスして、提供する商品を差別化したいというニーズも少なくない。

「ベテラン職人が一つひとつ手作業で作り上げている」と河田優さん。1979年の創業以来、絵羽や帯を入れる呉服関連の大きな貼箱を多く手



河田紙工

代表者／河田 敏子
住所／京都市伏見区桃山町泰長老 113
TEL／075-601-4086
<http://www.haribako-kyoto.com/>
事業内容／紙箱製造

がけてきた。菓子箱と違って、絵画などを収納する大きな箱では、サイズや形状の違う紙で別々に貼り合わせしていくのが一般的だが、同社では一枚の紙で継ぎ目なく包み込むようにして貼る技術とノウハウを有している。また、接着剤等との相性から敬遠されがちな布貼りについても、板紙や生地など素材の組み合わせを提案してお客様の要望に応えている。一個からでも受注できる小ロット多品種の強みを磨いていく」と河田さんは意欲を見せる。

難しい案件にも応える 問題解決型の提案力を強みに

印刷会社やデザイン会社の下請けとしてではなく、「フェイス・トゥ・フェイス」の御用聞きで、市場に埋もれた潜在ニーズを掘り起こしている。

例えば、貼箱で厚みのある紙を使うと四辺の縁に丸みができてしまつことがあるが、これを直角に立たせるには特殊な機械で角を削るなどの作業が必要だった。同社では、同じ素材の薄手の紙を貼箱の上に重ね貼りし、その角をシャープに折り曲げることで余計な手間やコストをかけることなく問題を解決。また、立体的な美術品を収納したいという要望には、蓋と身が一体化した丈夫で持ち運び可能なワンピース型の貼箱をオーダーメイドで設計し、高い評価を得た。

お客様が抱える悩みや課題に耳を傾け、これまで培ってきた知恵を生かした問題解決型の提案で新たな受注の取り込みを図る。他社では難しかった案件も「河田紙工なら叶えてくれる」と、ホームページなどを見て声をかけてくれるお客様も少なくないという。



貼箱の技術を活かしたウォールパネル



職人が手際よく丁寧に作成している



布を貼り付けた貼箱



★ Point.1 培ってきた技術の活用

規格外のサイズや接着剤との相性が良くない布貼りなどにも対応。和装関連の貼箱づくりで培った技術、ノウハウ、設備等を生かし、小ロットの受注にも小回りの利く手作業で応える。

★ Point.2 お客様の思いを具現化

貼箱技術に精通した営業担当者がお客様のもとに赴き、細かなニーズを汲み取る御用聞きに徹する。他社では難しい案件でも、知恵とアイデアでお客様の課題を解決し、思いを具体化する提案を行う。

★ Point.3 技術と素材の組み合わせ

貼る技術と新たな素材を組み合わせ、現代のライフスタイルに合った新商品を開発。異業種交流などでこれまでとは異なる市場にアンテナを張り巡らし、新たな需要の掘り起こしを進める。

応援
します!

経営革新・知恵の経営に取り組む企業のご相談にお応えします。
【相談無料】TEL.075-341-9781
中小企業支援部 知恵産業推進課

貼る技術の転用で 時代にかなう商品開発

昨年、京都商工会議所の支援で補助金を活用し、板紙に接着剤を圧着する機械設備を導入した。「貼るという技術を転用して、新たな市場を開拓したい」と河田さん。京商青年部（YEG）時代に培ったネットワークを生かし、デザイン性のある壁紙やちりめんなどを表面に貼ったメニューブック、ウォールパネルを開

発。YEGフェア等にも出展し、好評を得た。従来のお客様だけでなく、デザイナーや企画会社などに向けて情報発信を目指す。
職人の手からよどみなく生み出される貼箱の数々。商品に添える脇役でありながら、その個性はきらりと美しく輝いている。